

彙報

昭和六十一年度

文明研究会大会

昭和六十一年十月十八日、東海大学湘南校舎十一号館において、第五回東海大学文明研究会大会ならびに総会が開催された。大会では、現在自然科学の最も先進的な分野にて活躍されているお二方を講師としてお招きし、人文・社会科学中心の我々会員に新たな刺激を与えていただいた。また総会においては、会計報告及び活動報告が為され、昭和六十一年度の決算と予算案とが承認された。大会講演

『人工知能と社会』

CSK人工知能研究所長 岡本憲治氏

『植物資源と文明』

東海大学文学部教授 友永剛太郎氏

研究発表

『A Comparative Study of Expressional Structure among Japanese and American and Chinese』

東海大学大学院生 金沢清美氏

昭和六十一年度

東海大学文学部文明学科秀作卒論・修論発表会

昭和六十一年六月二一日、東海大学松前記念館において、第三回秀作論文発表会が開催され、昭和六十年度に文明学科各課程及び大学院修士課程に提出された最も優秀な論文の発表が行なわれた。卒業論文

「『続日本紀』の疫病」

日本課程卒業生 阿部一雄

「アメリカ留学制度の終局に関する一試論——容閔の誤算——」

東アジア課程卒業生 野村可能子

「インドにおける観世音菩薩の成立及び特性と変化——観音への転化——」

南アジア課程卒業生 佐藤友吏子

「十六世紀の書 Mecmû'ü Menzil に関する一考察」

西アジア課程卒業生 入江菜穂

「ベチョーリン及び『現代の主人公』の肖像」

東欧課程卒業生 三浦正仁

「『キヤベリの『君主論』におけるチェザーレ・ボルジア像』

西欧課程卒業生 杉浦直美

修士論文

「フーコーの『言葉と物』における表象と言説について」

大学院修士課程修了 中川久嗣

「ロラン・バルト、架空なる空間」

大学院修士課程修了 吉村 弘

昭和六十一年度

文明研究会例会

十二月例会

「記号のモラリスト、ロラン・バルト」

本学大学院生 吉村 弘

「内村鑑三の神学思想」

本学文学部教授(当時) 原島 正

四月例会

「インドの旅から帰って——今後のインド研究にむけて——」

Ranchi 本学大学院生 小山義則

五月例会

「律令期に重視された数学書」

本学大学院生 城地 茂

「雪にみる萬葉歌人の自然観」

本学大学院生 倉田安里

昭和六十一年度 文明学科卒業論文題目

文明日本課程

相吉 達夫 人形産地・岩槻の戦後における発展過程

浅野万里奈 北条政子

阿部 浩志 竹久夢二と大正ロマン

有島 浩子 わらべ歌に登場する動物の役わり——鹿児島を事例として——

飯田 誠二 餅なし正月について——坪井洋文説考察——

石原 一彦 福沢諭吉研究——諭吉の女性解放論にみる男女

観——

伊藤 良春 船橋、浦安の漁場権をめぐる紛争

小椋 直樹 戦後、醤油醸造業の地域動向——K社の例を中心

に——

小沢 宝二 弘道館の思想——尊王攘夷論——

小野塚 武 大黒天小考

数間 郁生 本多利明の遷都論について

菊永香保里 食物禁忌

高津原雪絵 商人の学問・石門心学——都鄙問答より——

斎藤 義明 従軍慰安婦の存在と彼女達の八月十五日

桜井 伸二 戦後日本における離島の類型区分

笹本 陽子 桶狭間の戦いにおける織田信長について

塩島 博夫 わが国における陪審制度の興亡

下風 順子 鎖国下の日本の外交

白川 千恵 撰関時代の今様

須川 紀子 日本における卓球の歴史と発達

鈴木 喜夫 甲陽軍鑑にみる駿河進攻に関する一考察

高橋 雅彦 芭蕉の美意識における恋論——野ざらしの旅以降

都留 孝子 に焦点を合わせて——
幕藩制国家における「孝」——官刻孝義録の分析
から——

寺床八千代 慶長遣欧使節

西出 和子 政治思想家としての杉田玄白

沼沢 栄一 清河八郎の行動と攘夷倒幕計画

花谷 成之 日本食文明

藤巻 辰男 新府のモモ栽培について

古田 泰久 日本人の冒険観

見原 出 地方都市における新産業の発展と信仰の関係

宮城 淳志 鶴見川流域における水防対策の変化

村上 純一 渋谷道玄坂の変化

森本淳一朗 焼津漁港の機能の変遷と現状

山岡 端栄 壬申の乱における天皇側の行程について

山岸 香 鬼ごっこ——「動き」に関する一考察——

山口 誓司 四国巡礼におけるお接待——村人の視点から——

山田 芳久 雑誌『地政学』に見る地政学の領域

若林 崇雄 農業用水合理化事業への農民の対応——浦和市芝
原集落を事例として——

陳 志山 『唐大和上東征伝』について

佐藤 広志 高野長英の開国思想

松尾 嘉寛 田中正造の人民思想

青木 貴代 昔話にみられる甕の特徴

姉崎 正治 修験道と民間信仰——新潟県下越地方での修験の
展開と受容について——

荒木 俊彦 東北オシラ信仰と関東蚕神の本質と現代に通ずる
民間宗教的意義

有馬 典昭 桶狭間の合戦について

伊東 康弘 祈禱——日蓮宗に於ける祈禱の研究

白澤 渉 『古今和歌集』（春、夏、秋、冬歌）にみる季節
感とその美意識

海老原勇生 昭和戦前期、栃木県における農村疲弊と経済更生
運動

岡野 義彦 瀬戸内零細綿織物業地の変容——児島の事例——

奥山 宏二 神隠しについて

小黒 祐子 異類女房譚にみられる動物別動物観の違い

小田 知英 昔話、伝説におけるタヌキの性格

鏡 直彦 イエズス会宣教師の日本語研究と『どちりなキリ
シタン』における用語の考察

川口 孝幸 昭和初期の農業負債と経済更生運動

君島 祥隆 都市近郊農業の営農事情——横須賀市を事例とし
て——

小清水 潔 道元の生涯と道元禪

小船 幾男 川崎市における住宅地環境のメッシュ分析

坂田 真一 大手私鉄の沿線住宅地開発

坂本ひろみ 都市民俗学——都市化による神社信仰の変化——

佐々木直美 秋田県大館市の仏教的行事

佐藤 広志 江戸川区の農業

篠崎 和敏 地盤沈下地域に於ける土地改良事業の動向

白石 浩 御嶽山の信仰形態

菅沢 成公 千葉県における水需要の増大と水資源開発

鈴木 健蔵 米欧回覧実記考

高倉千賀子 岡倉天心のアジア主義——『東洋の理想』についての一考察——

高橋 敏郎 日吉神社祭礼屋台の変遷

寺田 博史 いわさきちひろの絵本論——絵本の発想の原点と本質——

西野 正 新聞広告における広告主と媒体の関係

野口 正樹 東京水道の利点と問題点

藤原 隆子 福沢諭吉の女性観について

堀井 真一 相澤家の経済と生活——相州相原村の相澤菊太郎の日記を基にして——

松高 貴子 茶道の合理性について

皆川 友子 平安時代中期、藤原道長の時代の著袴と著裳

三村 貴之 日本人の協同意識——村落社会の協同意識

村井 恵理 正倉院の箱と櫃

望月 修 百姓命助の生

山川 欣人 新潟県砂丘地農業における労働力問題と土地利用

山口 勝則 津久井郡地方における葬送墓制制度

山田 常雄 合資以前の三菱の人事

吉野 茂 軍人勅諭

渡邊 美紀 最澄の書

石山 光弘 北海道における産業構造の変容と人口流動及び札幌市の発展

辻 友弘 わが国の自然保護団体の実態と傾向

井上 理佳 山川登美子像

加藤 明 船霊信仰の地域差の研究

文明東アジア課程

石関 康俊 朝鮮軍解散と義兵運動への影響

石塚美佐江 現代中国における離婚問題

大矢 真理 蜀漢帝国における対魏北伐の目的及び北伐失敗の原因について

鏡味 繁和 新幹会東京支会の設立——民族統一戦線樹立にいたるまで——

神谷るみ子 中国の教育は、今

神田 美華 奴婢

北野谷充香子 魯迅の女性観

小山 弘之 中国明代における所謂廠衛の成立と宦官勢力の進出について

佐川 功 黄巾の乱のスローガン——蒼天と黃天の関係から見る意味内容について——

出について

黄巾の乱のスローガン——蒼天と黃天の関係から見る意味内容について——

柴田 智充 朝鮮三・一独立運動にみる日本の弾圧
杉本 学 周時経の七国観——「越南七国史」訳述を中心
に——

鈴木 浩 韓国における「漢字廃止」ハングル専用」問題

関 夕香 中国における風力エネルギー利用

高杉ひろみ 懲慙録にみる日本観

高橋麻理子 大阪事件にみる朝鮮

高山 直子 カラハン宣言における中東鉄道利権問題の変化

瀧島 篤人 「百人斬り競争」ははたして虚報か

田村 浩美 五徳に関する一考察——漢の受命について——

千葉 広 巴蜀の豪族政権——巴蜀の豪族の経済を中心に

豊田 晴美 殷、西周時代の鳥

中居 挙子 揮春事件の謀略性について

中島万里子 義和団の乱後における光緒新政——実業振興につ

いて——

中丸 広明 戴季陶の反共思想形成についての一考察

野崎 潤 『中国笑話の猥褻性と風刺性』——日本の落語・

江戸小咄と中国笑話本『笑府』との比較を通して

坂東 誠一 一八九五年台湾抗日闘争の内実について

久松 伸秀 スティルウェル事件の真相の究明

深田 剛 北京共産主義グループ成立についての一考察——

張国燾の思想的変遷とグループ内における役割に

ついて

藤中由紀子 清末の財政思想について——黄遵憲を中心にし

て——

松井 節子 人間・川島芳子

三澤 淳 シンガポールにおける華人ショービニズムと現地

化への歩み

水野 英夫 日本亡命期の金玉均と日本政府の対応について

宮代 知子 三国時代の任侠的結合について——曹操の豪俠集

団を通じて——

村田 哲一 申午改革の考察——身分制度改革を中心に

村松 興一 隋朝にみるインド仏教の中国的変容

森 裕子 李朝後期朝鮮における米穀流通——ソウルを中心

として——

山内美恵子 江南地方の養蚕製糸・織物業にみる商品生産——

明代を中心とする——

山口 優一 義和団の宗教的側面——神術を中心として——

吉田 至宏 前漢武帝代の酷吏について

米倉 千鶴 斉の桓公の覇たる所以——『呂氏春秋』に於ける

一考察——

中村 真二 現代中国の体育政策が目指すもの——体育政策の

考え方が競技スポーツに移行しての考察——

浅野 伸一 旧満州国道路事情

阿部 恵美 李時珍の本草綱目に関する一考察

伊藤 潔 中国武術と日本空手道の比較

中村 研司 在華紡の生産能率について

廣嶋 宗治 匈奴に対する光武帝の政策について

箕輪 紀明 西原の对中国構想とその借款についての研究

松岡 晃史 韓国の一九六〇年以降の高度成長における都市農

村間の格差

文明南アジア課程

勝倉 庄司 ガンディーの非暴力——その有効性をめぐって

鈴木理恵子 ジャガンナート寺院とその信仰について

中川真紀子 古代インドにおける浄・不浄観——マヌ法典を中

心に——

小林 正蔵 ガンディーの指導力

永田美和子 古代インドにおける菜食傾向——肉食から非肉食

へ—— 知者の行為について——ジャンカラのプラフマ・

野村 敏子 スートラ釈論に基づく——

平田 明裕 ガンディーの菜食主義について

堀田 洋史 インディラ・ガンディーの政治と民衆

三浦希実子 インドラ——リグ・ヴェーダとマハーバーラタに

おけるインドラ像——

渡辺 充子 Satapatha Brāhmana に於ける Agnihotra

渡辺 正 ジャワ諸芸術に見られるワリ・ソゴの布教活動の

影響

新川 雅俊 商品経済の浸透と村落社会の構造変化（十六世紀

〜十八世紀の西インドを中心に）

植草慎一郎 釈尊とイエス・キリストの人間の存在意味と幸福

観にみる宗教的考え方の比較

文明西アジア課程

上草 弘道 十九世紀末カージャー朝の軍隊

北方 純子 古代エジプトにおける金の獲得方法について

木村 公一 ガザリーの『光の壁龕 (Mishkat al-Anwar)』

における神の概念について

久津間リエ アッラーの娘達——ジャーヒリーヤの偶像崇拜

鈴木 正子 預言者ムハンマドによる「アラブ部族社会」統合

の実態

鈴木 基彦 ナセル期のエジプトにおける工業化——一〇七年

計画の崩壊まで

清野 理香 アラブ世界の女性像——生活を通して見た女性に

ついて

中山由美子 古代エジプト新王国時代の朝貢図について——貴

族墓内壁画からの一考察

根本 達夫 サファヴィー朝成立の背景

早水 伸光 トルコ・ナシヨナリズムの発展とユスフ・アク

チュラ

広井 志保 サーマーン朝イスマール廟

松田 隆彦 カーシャル朝時代のサツラフについて

松田美弥子 アッバース朝初期の政治史について

三菅 勉 古代エジプト新王国時代の職人集団について

湊 勇子 ハトホル女神について

吉田 久美 伝統的アラビア民族衣装とその機能について

木伏 正至 Khawarij派の活動と思想について

文明東欧課程

安達 裕二 シベリア鉄道の意義

飯塚 武彦 北方戦争におけるピョートル大帝とカール十二世

伊藤 豊 ナチスドイツ侵入以後におけるユーゴスラヴィア

岩崎 賢一 赤衛軍勝利の要因

加藤 勲 KGVとCIA

神尾 明宏 トロツキー論

亀岡 浩 「血の日曜日」事件の背景

木村 英一 ロシア人の日本観——ゴロウニンの場合——

楠 浩和 日露戦争がロシア第一革命におよぼした影響

高坂 俊昭 エカテリーナ大女帝の治世とポーランド分割

後藤田光代 『カラマゾフの兄弟』に見るドストエフスキー

の宗教観

坂口 力 アレクサンドル一世の外交政策

佐藤 拓也 ナロードニキとマルクス主義

佐保田幸春 ユーゴスラヴィアの経済問題について——第二次

世界大戦後の工業化を中心に——

清水 雄二 第二次世界大戦後のブルガリアの農業について

杉山ふじ江 ワルシヤワ蜂起

関口恵理子 ユーゴスラヴィア連邦共和国成立に果したセルビ

ア人の役割について——「ドリナの橋」をめぐっ

て——

坪井 洋美 チェーホフの作劇術（戯曲「かもめ」について）

時田 浩靖 チェコスロヴァキアの建国——第一共和国設立ま

で——

豊島 典昭 ソビエトの体育・スポーツについて

内藤 禎久 モンゴル人のロシア支配について

中川 香織 コンスタンティノープルの陥落——コンスタンテ

ィヌス十一世とスルタンマホメッド二世——

長岡 徹 デカブリストの反乱

西村 和晃 キエフ・ロシアの宗教政策——キエフ公国とビザ

ンツ帝国の結びつきを中心に——

野田 和平 異教時代のマジャール民族史

濱 麻美 現代ソ連国家の宗教

林 由紀子 プラハの春——その原因と主役たち

藤井 秀行 バルカンの少数民族（特にブルガリアにおけるジ

ブシーとトルコ人）

松澤 修一 ソ連の初期銀行制度から見た社会主義経済の形成過程

三浦かすみ アンナ・アフマートワ論

水口 宏 リトワ大公園ルテナ支配をめぐる

守屋半慈郎 第二次世界大戦後のポーランド——特にポーランド戦争について——

和田 考史 ビョートル大帝のつくった都市（ペテルブルグの建設過程とその重要性）

酒井 雄一 ドイツ民族主義とソ連の外交政策——第二次世界大戦の要因——

但島 康之 ユーゴスラヴィアとソ連の国防体制について

橋口 衝子 B・C・ソロヴィヨフの思想——東西教会の統一について——

伴 義彦 チトー政治と反チトー派——ユーゴスラヴィア近代史の側面——

森田 基之 反ファシズム抵抗運動においてバルチザンの果たした役割

文明西欧課程

秋元 一真 オルテガと民主政治

安宅 圭行 ドイツ自動車文明の発達要因と現在の問題点

石井 千恵 宗教改革が北方ルネサンスに及ぼした影響

伊藤 剛 コンピュータ化社会の問題点

宇佐美浩一 日本女性における洋装の起源

緒方 嘉宏 日本人の欧米渡航

織戸亜由美 カフカ文学について——社会・個・救済——

梶田 雅彦 ラテンアメリカの新世界形成

川島 育子 司教都市の成立と衰退

菊地 裕泰 中世西欧の魔女裁判の系譜——『魔女に与える鉄槌』の研究をめぐる——

北見 香里 脳死と臓器移植の現状分析

木下三重子 お伽話における母の像

倉田 勝 海上貿易の歴史とありかた

紅床 和久 『異邦人』ムルソーの死

小池 普子 浮世絵をめぐる印象派の画家達——特にジャポニズムの視点より——

小林 敏郎 都市のシンボル論

斎藤 聡 一九六〇年代からのマラー

佐々貴 尚 日本人の食文化とファーストフード

白石 満穂 現代文明の指標としてみたテレビCM論

関谷裕美子 イギリス人はコーヒーが好きだった——十七・十八世紀におけるコーヒーの盛衰及び紅茶への移行について——

高橋 裕明 古代ギリシア人の体育観——ホメーロスの作品を通して——

武井 清恵 ホスピスについて考える

田中万紀子 サン・ジュストのユートピア

塚田 敏之 カード社会未来像、その光と影

手島 直人 東京デザイナーの軌跡——ヨーロッパ文化への進出と日本での展開

本での展開——お洒落になった若者達——

富田 理恵 フランス革命——旧体制と貴族の果たした役割について

ついで

内藤 勝己 さまよえる死

中田 晃彦 速度無制限による思想——アウトバーンが西ドイツ車にもたらした影響——

中村 圭一 日米現代マンガ考

広瀬 公子 ハンザ同盟精神——『ブッデンブロック家の人々』を通して

藤田加生利 英国社会主義——その本質とフェビアン社会主義——

本多美輪子 十七世紀オランダ絵画における子供の誕生

水野 修良 ヒトラー暗殺事件の歴史的意義

吉田 有秀 現代火災の恐ろしさ

黄 俊仁 アメリカの戦争——南北戦争から見たアメリカ人の民族性

の民族性

高木 茂 車における安全性

小口 晃弘 高速道路——日本とヨーロッパの比較検討

彦根 純人 魂について——バイドンにおける魂の不死の論理

について

三浦 稔彦 D・ボンヘッファーの「世俗化論」——その本質と展開

岡本 哲侍 モリエール作品に見るプレシウズと女性観

秋山 勇 ゲルマン民族の南化

飯田 典子 『ヴェニス商人』におけるユダヤ人問題——偏見とその今日的意味——

見とその今日的意味——

市川 和美 同性愛への寛容と非寛容

井野口 香 ヨーロッパ中世における死の観念——その変遷と社会背景——

岡田 和也 ことわざを通してみた日本と英米——生死観について——

小野崎聡一 キリスト教徒の死の思想

金井 節雄 青年文化とは？——新人類という言葉の考察

川上 誠 日本のスポーツ観

川村 由華 十九世紀フランスにおけるモードから見た女性像

木佐實建二 パブリックスクールにおける人間教育

木村 寿人 新世代文明社会の非

栗原 祥子 フランス革命初期におけるシェエスの役割

斎藤 貴行 ナチス時代におけるドイツ文学——反ナチ文学を中心として——

坂本 泰彦 シェイクスピアとラシーヌの親子観

笹原みのり 十六・十七世紀における魔女像の成立について

白石 智之 日本車と西独車

樫村三千代 服装からみたブルジョア社会——十九世紀フランスの女性を中心に——

高橋 俊之 フォルクスワーゲン誕生における二人の男とその発展の系譜

武井 博幸 N. S. D. A. P. ——その勢力上昇・定着の要因

田中 栄樹 比較文明論：日本とイギリス——近年の日英貿易を通じて——

手銭 辰郎 英国大衆文化における道化の史的展開

中島 純輪 日・米の反核運動の比較・研究

中野 豊 パンク・ロックにみる流行現象

中村 秀臣 十六世紀スペインにおけるインディオ観

南都 典忠 イギリスとフランスの確執——十八世紀から十九世紀初頭にかけて

原田 昌治 ヘロドトスの異民族観について

藤城 徹 IN-FLIGHT MEAL——空飛ぶ食文化——

布施由美子 ファウスト伝説とその変容——そこに見いだすヨーロッパ精神

保科 健一 イエスの思想研究

松井 智世 食事とコミュニケーション

山田 芳裕 剣道とフェンシングの比較文化論——伝統ある運動文化の現状——

吉田 照明 ナポレオン——セントヘレナにおける意義——

村山 暢儀 ワインと食卓文化

小野 伸一 ドイツにおける森林の意義

志岐 和宏 「暴君ネロ」——真のネロ像を求めて——

高橋 一秀 パルテノン神殿とその模型化

中村 圭子 福音書におけるイエス研究とその意義

山田 秀樹 文学 Encounter

昭和六十一年度 大学院文明研究専攻

修士論文題目

大橋 瑠美 都市としてのメディア要塞

金沢 清美 A Comparative Study of Communicative Styles among Japanese, Chinese and Americans

城地 茂 律令期の数学者